

磯 根 資 源 調 査

担当者技師 高 橋 邦 夫

〃 青 山 楨 夫

I 調査目的

尻屋沿岸におけるエゾアワビの資源量および生態調査を実施して適正な漁場管理の指針とする。

II 調査内容

(1) 調査場所

下北郡東通村尻屋

(2) 調査期間

昭和42年4月～~~4~~43年3月

(3) 調査項目および方法

調査項目

- ・ 潮間帯の資源量調査
- ・ 低潮線下の生息状況調査
- ・ 標識放流調査
- ・ アワビの生長調査

(4) 調査方法

潮間帯については4×4mの枠取りを、低潮線下については潜水により生息状況を観察した。

標識にはステンレス製標識を用いて1,980個の放流をおこなった。

III 調査結果

(1) 潮間帯の資源量調査

第1表

アワビの枠取り採取結果

調査線	枠取り区	1	2	3	4	5	計	調査時の 干出距離
S七	1	118	48				166	59.6 m
	2	2	4	26	34	104	170	73.0
	3	31					31	42.0
	4	67	18	43			128	134.0
	5	29	59	54	88		230	234.0
	6	2	28	42	28		100	144.0
	7	32	166	134			332	34.0
	8	10	34				44	61.0
	8	184	147				331	47.0
	9	41	50				91	57.0
	10	74					74	32.0
	11	45	58				103	25.0
	12	50	35				85	18.0
	13	27					27	20.0
							1,912	

(1967, 6, 7～10)

第2表 資源量調査結果 (Tidal zone)

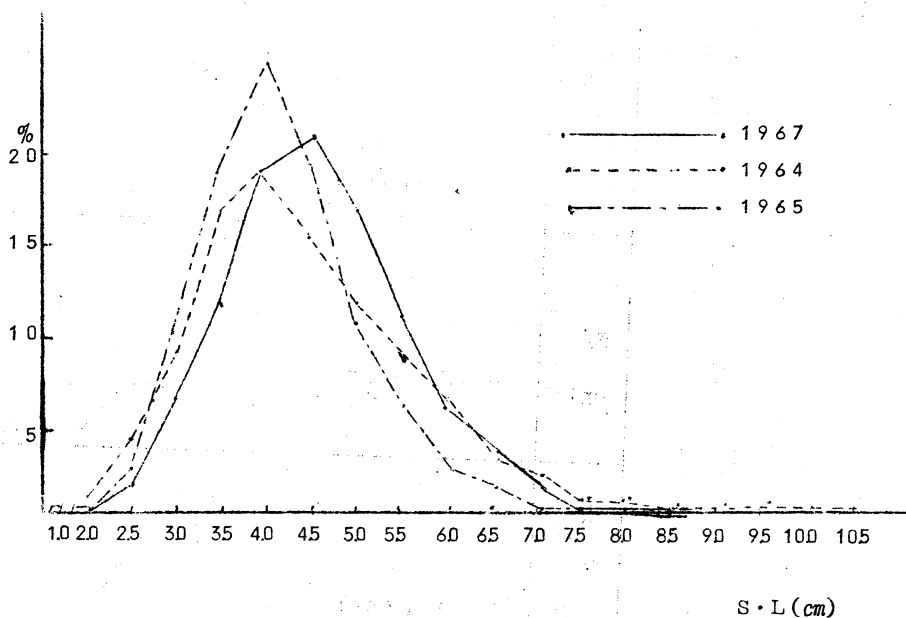
調 査 月 日	1967.6.7~10	1964.6.10~13	1965.7.1~4
設 定 枠 数	34	43	44
1. 枠 内 の 採 取 個 数	2~184	2~350	0~232
1. 枠内の平均採取数	56	71	47
採 取 ア ワ ビ 総 数	1,912	3,038	2,458
干出地帯の推定資源量	約 20 万個 (約 40 万個)	約 50 万個	約 40 万個

枠取りによる結果は、第1表に示すとおり計1,912個のアワビを採取したが、この結果から全沿岸の資源量調査を推定すると最大干潮で約40万個となる(第2表)

また、このアワビの殻長組成をみると第1図のとおり殻長3.5~5.0cmの個体が全体の68.3%を占めている。

第1図

アワビ殻長組成 (Tidal zone)



(2) 低潮線下の生息状況

水深 10 m 以深ではや
ゝ大型のアワビが生息す
る傾向にあるが、潮間帯
のそれと大差はない。

(3) 標識放流

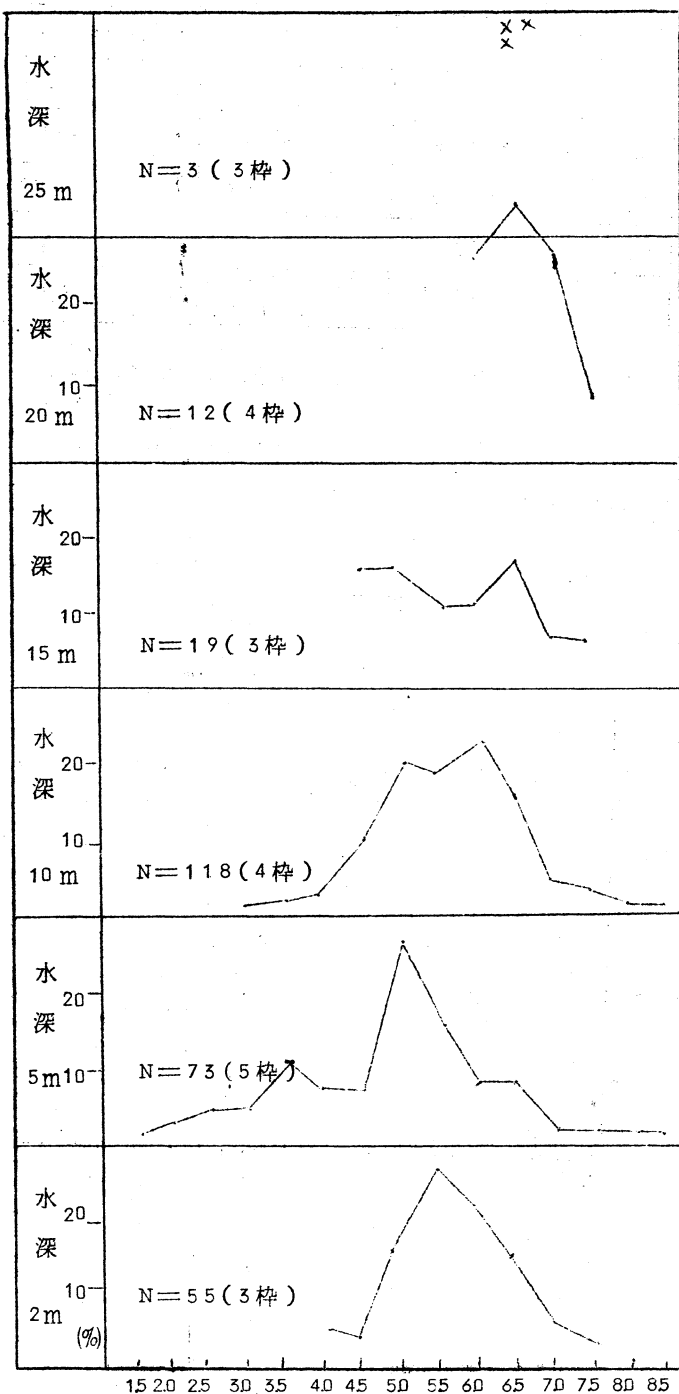
ステンレス標識を用い
て 1,980 個放流したが、
この結果は明年度以降
(再捕後) 明らかになる
と思われる。

(4) アワビの生長

マツフル炉を用いて年
令別の生長を測定し第 2
図の結果を得た。
これによると生長は奥尻
(北海道) に類似してお
り、8 年で平均 8.49 cm
に生長することになる。

第 3 表

アワビ殻長組成 (Sub-tidal zone)



1967, 7, 24~25 10・23 SL (cm)

IV 考 察

潮間帯のアワビは数年来ほぼ安定した資源量を保っていると思われる。

今後は低湖線下を主体に調査する予定である。

（昭和42年度指定調査研究総合助成事業磯根資源調査報告書（アワビ）

昭和43年2月

青森県水産試験場、参照のこと。

第2図

年 級 組 成（中間経過）

